

基調講演

基調講演 1 12月8日(木) 9:30～10:30 (第1会場)

“Modulation of stress axis function in fish is associated with exposure to waste water treatment works (WWTW) effluent and variation in water quality”

座 長：井口 泰泉
横浜市立大学

演 者：Prof. Peter Matthiessen
Centre for Ecology and Hydrology, Lancaster, United Kingdom

基調講演 2 12月8日(木) 16:50～17:50 (第1会場)

“Mixtures matters EDC-MixRisk: a novel approach for improved decision making o EDCs”

座 長：山崎 邦彦
環境省環境保健部

演 者：Prof. Åke Bergman
Executive director of Swetox

教育講演

教育講演 1 12月9日(金) 13:40～14:25 (第1会場)
「Behavioral toxicology in rodents: useless or needed?」

座長：遠山 千春
筑波大学医学医療系・環境生学

演者：Prof. Hans-Peter Lipp
University of Zurich / Neurospex GmbH

教育講演 2 12月9日(金) 16:00～16:45 (第1会場)
「ネオニコチノイドの活性発現と選択性の分子機構」

座長：鯉淵 典之
群馬大学大学院 医学系研究科 応用生理学分野

演者：松田 一彦
近畿大学農学部応用生命化学科

シンポジウム

シンポジウム 1 12月8日(木) 13:30～15:30 (第1会場)

「内分泌かく乱物質対策の最近の動向と環境省 EXTEND2016：試験法開発と日英共同研究の成果」

座長：井口 泰泉 (横浜市立大学)

川嶋 之雄 (日本エヌ・ユー・エス株式会社)

- － 井口 泰泉・川嶋 之雄 (横浜市立大学 生命ナノサイエンス・JANUS)
- － 山崎 邦彦 (環境省環境保健部)
- － 鑑迫 典久 (国立環境研究所)
- － 井原 賢 (京都大学工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター)
- － 宮川 信一 (和歌山県立医科大学・先端医学研究所)
- － 小林 亨 (静岡県立大学 大学院食品栄養環境科学研究院 環境生命)

シンポジウム 2 12月9日(金) 9:15～11:45 (第1会場)

「日本のダイオキシン・AHR 研究最前線—どこまで実態が解ったか？」

座長：松井 三郎 (京都大学名誉教授)

- － Su-Min Bak (Dept. Life and Nanopharmaceutical Science, Kyung Hee University / Dept. Biology, Kyung Hee University)
- － 寺岡 宏樹 (酪農学園大学獣医学群生体機能学分野)
- － Eun-Young Kim (Dept. Biology and Department of Life and Nanopharmaceutical Science, Kyung Hee University)

座長：岩田 久人 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター)

- － 松田 知成 (京都大学工学研究科)
- － 松田 俊 (京都大学大学院工学研究科 / 富士フイルム株式会社)
- － 掛山 正心 (早稲田大学人間科学学術院 予防医科学 / 行動神経科学研究室 / 早稲田大学環境医科学研究所)

ミニシンポジウムプログラム

ミニシンポジウム1 12月9日(金) 14:30～16:00(第1会場)

「レギュラトリーサイエンスによる内分泌かく乱化学物質の影響評価— 農薬の生態毒性学的視点からみた EC の Impact Assessment Report —」

共催：一般社団法人 セタックジャパン

座長：雑賀 修(コンサルタント)

- － 雑賀 修(コンサルタント)
- － 田中 拓(クミアイ化学工業株式会社)
- － 入江 浩大(日産化学工業株式会社)
- － 松本 建(株式会社日曹分析センター)
- － 西村 崇之(石原産業株式会社)
- － 柳沼 慎二(日本農薬株式会社)
- － 萩野 哲(住化テクノサービス株式会社)

ミニシンポジウム2 12月9日(金) 14:30～16:00(第2会場)

「若手の会キックオフシンポジウム - 若手研究者のキャリア・ライフプランのための References-」

座長：宮崎 航(群馬大学大学院医学系研究科器官機能制御学講座)

- － 熊本 隆之(奥羽大学薬学部)
- － 宮川 一志(宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター)
- － 野見山 桂(愛媛大学沿岸環境科学研究センター)
- － 松島 綾美(九州大学大学院理学研究院)

特別セッション

特別セッション1 12月8日(木) 15:30～16:50 (第1会場)

「エストロゲン様物質の曝露と影響の包括的把握にむけた最新研究：国立環境研究所の研究紹介」

座長：曾根 秀子(国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)
河原 純子(国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)

- － 前川 文彦(国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)
- － 宇田川 理(国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター)
- － 西浜 柚季子(東京大学大学院新領域創成科学研究科)
- － 中島 大介(国立環境研究所)

特別セッション2 12月8日(木) 15:30～16:30 (第2会場)

「千葉出生コホートを通じたエコチル調査への応用探索」

座長：戸高 恵美子(千葉大学予防医学センター)
江口 哲史(千葉大学予防医学センター)

- － 森 千里(千葉大学予防医学センター)
- － 江口 哲史(千葉大学予防医学センター)
- － 鈴木 規道(千葉大学予防医学センター)
- － 渡邊 応宏(千葉大学予防医学センター)

セッションプログラム

セッション1 12月8日(木) 10:30～11:30(第1会場)
「評価法・生態系への影響」

座長：富永 伸明(有明工業高等専門学校)
久保 和彦(千鳥橋病院 耳鼻咽喉科)

SS1-1 **ビスフェノール A の芳香環ハロゲン置換が核内受容体 ERR γ への結合性におよぼす影響の評価**

○袈裟丸 仁志¹, 金子 周平¹, 大久保 貴史², 巢山 慶太郎³, 劉 暁輝⁴,
松島 綾美⁴, 野瀬 健^{1,3}

¹九州大学大学院理学府化学専攻 生体分子化学研究室, ²九州大学理学部化学科,
³九州大学基幹教育院, ⁴九州大学大学院理学研究院化学部門構造機能生化学研究室

SS1-2 **化学物質のリスク評価の現状と課題**

○遠山 千春
環境健康科学技術国際コンサルティング (HESTIC); 筑波大学医学医療系・環境生物学

SS1-3 **トリブチルスズおよびペルフルオロオクタンスルホン酸を暴露したメダカ (Oryzias latipes) における obesogen 活性と遺伝子発現変動**

○Chen Kun, 芳野 友美, 岩崎 尚仁, Qiu Xuchun, 田代 康介, 島崎 洋平,
大嶋 雄治
九州大学大学院 農学研究院

SS1-4 **ミジンコの幼若ホルモンかく乱によるオス仔虫誘導に係る Adverse Outcome Pathway の構築**

○渡部 春奈¹, 阿部 良子¹, 宮川 一志², 豊田 賢治³, 井口 泰泉⁴, 鑪迫 典久¹
¹国立環境研究所環境リスク研究センター, ²宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター, ³バーミンガム大学, ⁴横浜市立大学

セッション2 12月8日(木) 10:30～11:45(第2会場)
「動物への影響・ヒトへの影響・エコチル」

座長：星 信彦(神戸大学大学院)

菅野 純(独立行政法人労働者健康安全機構 日本バイオアッセイ研究センター)

SS2-1 ネオニコチノイド系農薬曝露によりみられた神経行動学的異常および標的脳領域の探索

○平野 哲史¹, 柳井 翔吾¹, 高田 匡¹, 米田 直起¹, 表原 拓也¹, 久保田 直人¹, 南 貴一¹, 万谷 洋平², 横山 俊史¹, 北川 浩², 星 信彦¹

¹ 神戸大学大学院 農学研究科 応用動物学講座 分子形態学分野, ² 組織生理学分野

SS2-2 有機リン系、ネオニコチノイド系など農薬の次世代への健康影響

○木村—黒田 純子¹, 黒田 洋一郎²

¹ 公財) 東京都医学総合研究所, 脳発達・神経再生研究部門, ² 環境脳神経科学情報センター

SS2-3 日本人妊婦の尿中ネオニコチノイド系農薬濃度

○飴田 玲伽¹, 青井 亜里沙², 上山 純², 西浜 柚季子¹, 吉永 淳^{1,3}, 久田 文⁴, 下平 和久⁵, 加藤 進昌⁶

¹ 東京大学新領域創成科学研究科, ² 名古屋大学医学系研究科, ³ 東洋大学生命科学部, ⁴ 熊本大学生命科学研究部, ⁵ 昭和大学医学部産婦人科, ⁶ 昭和大学医学部精神科

SS2-4 甲状腺ホルモン受容体機能を活性化する環境化学物質の解析

○岩崎 俊晴¹, 原口 瑞樹², 大澤 祥², 宮坂 祐平², 鯉淵 典之²

¹ 神奈川県立保健福祉大学 保険福祉学部 人間総合・専門基礎, ² 群馬大学大学院 医学系研究科 応用生理学

SS2-5 ネオニコチノイド系農薬クロチアニジンは胎子型と成獣型、2種類のライディッヒ細胞にそれぞれ異なる影響を及ぼす

○柳井 翔吾¹, 平野 哲史¹, 表原 拓也¹, 高田 匡¹, 米田 直起¹, 岩本 遥¹, 万谷 洋平², 横山 俊史¹, 北川 浩², 星 信彦¹

神戸大学大学院 農学研究科 応用動物学講座, ¹ 分子形態学分野, ² 組織生理学分野